



## 季節と災害

日本のおもな地震災害 P2  
掲載した災害について P2  
「日本の災害」 1月 P3  
2月 P4 3月 P5  
4月 P6 5月 P7  
6月 P8 7月 P9~11  
8月 P12~13  
9月 P14~16  
10月 P17  
11月・12月 P18  
複数年にわたる災害 P19  
-----  
2000年までの気象災害・  
突風被害 P20~31

関東大震災から100年目の本年、女性技術士の会の方々の経験や「防災への取り組み」についての記事を集めて「防災特集2023」を作成しました。

最初に「日本では、いつ、どんな災害が起こってきたのか」をまとめました。

災害は種類別でとりまとめられることが多いですが、「季節と災害」では過去の災害を月別（日付順）にまとめています。

**「寒い時期」に地震が起きたら、「猛暑の日」に地震が起きたら、「真夜中」に地震が起きたら・・・**というように災害が起こった状況に思いを馳せて頂きたいと思いました。

具体的には、「**月ごと**」に、日付順で地震・津波・火山、気象災害・突風災害の順に災害を掲載しました（同じ日付で同種の災害は、年が古い順に掲載）。

なお、地震・津波・火山と一緒に2001年以降の気象災害・突風災害を一緒に掲載しています。2000年以前の気象災害・突風災害は以下の期間に区切って別枠で掲載しています。

1945年（昭和20年）～1960年（昭和35年）※突風災害のデータはこの期間なし

1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）

1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）

これは、**高度経済成長期（1955年～1973年までの19年間）に気象災害が比較的少なく**、その状況をもとにインフラ整備が進んでいる場合があること、整備された**インフラの老朽化**を認識しておきたいからです。

近年では、地球温暖化の影響で**気象災害の多発**していることにも認識が必要です。例えば6月を比較すると、1990年頃より6月入ってすぐから梅雨前線による気象災害が記録されるようになっていくことがわかります。「本州では6月中旬ごろに梅雨に入るので大雨に警戒が必要」という**昔の経験は通用しない**ことを意味します。「大震災後の豪雨災害が増えているのでは？」「乱開発による災害（2022年熱海の土砂崩れ被害など）が起きているのでは？」などの懸念もあります。

### 「過去に起こった災害は、将来も起こりうる」

高温で起こった大規模停電の事故、湯水の被害も掲載しています。将来も同様の災害が起こりうることを認識しておきたいからです。

また、「長雨被害に地震被害が重なる」、「火山の噴火で山体崩壊が起こり、その後、崩壊した土砂で津波の被害が発生した」のように「**災害が重なる**」事例についても認識しておきたいです。

大規模災害の時は、「仕事を投げ出しても身の安全を図る」など、究極の選択をしなくてはいけない時もあるでしょう。「災害特集2023」が「ご自身や家族を守る行動につながる知識」や「仕事上の決断を後押しする知識」につながることを願っています。

2023年9月1日  
広報部 山本有子

<日本のおもな地震災害> ※各月の資料より抜粋

1995年（平成7年）	1月17日	兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）	2023年で28年目
1666年（寛文5年）	2月1日	越後高田の地震	
2011年（平成23年）	3月11日	東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）	2023年で12年目
2016年（平成28年）	4月14日～平成28年（2016年）	熊本地震	2023年で7年目
1983年（昭和58年）	5月26日	日本海中部地震	
2018年（平成30年）	6月18日	大阪府北部の地震	
1993年（平成5年）	7月12日	北海道南西沖地震	
2007年（平成19年）	7月16日	新潟県中越沖地震	2023年で16年目
1896年（明治29年）	8月31日	陸羽地震	
1923年（大正12年）	9月1日	関東地震（関東大震災）	2023年で100年目
2018年（平成30年）	9月6日	平成30年北海道胆振東部地震	2023年で5年目
2004年（平成16年）	10月23日	中越地震	2023年で19年目
1891年（明治24年）	10月28日	濃尾地震	
1930年（昭和5年）	11月26日	北伊豆地震	
1944年（昭和19年）	12月7日	東南海地震	
1946年（昭和21年）	12月21日	南海地震	

<掲載した災害について>

地震・津波・火山の被害は2022年（令和4年）までを掲載

日本付近で発生した主な被害地震（平成8年以降） 被害概要は総務省 HP より過去の地震津波災害

明治以降1995年までに、我が国で100人以上の死者・行方不明者を出した地震・津波過去に発生した火山災害

18世紀以降、我が国で10人以上の死者・行方不明者が出た火山活動

気象災害（台風と梅雨前線）は2022年（令和4年）まで掲載（275事例）

「災害をもたらした気象事例」（平成元年～本年） / 「災害をもたらした気象事例」（昭和20～63年）

突風被害は2023年3月（令和4年度）までの人的被害のあった事例を掲載。

「竜巻等の突風データベース」1961年1月～2023年3月より抜粋

<出典>

気象庁 | 各種データ・資料 | <https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html> より

「気象の過去の災害」「地震・津波、火山の過去の災害」 ※発生時刻は気象庁報道発表資料を参照  
総務省消防庁 | 災害情報 | より近年の被害状況を参照

<https://www.fdma.go.jp/disaster/#anchor--01>

福島第一原子力発電所事故の経過と教訓（東京電力ホールディングス）

<https://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/outline/>

渡島大島の噴火（北海道新聞・文化面、2005年2月3日（木曜）夕刊）

<http://shima3.fc2web.com/oshimaooshima-tsunami52.htm>

江戸時代以前は内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」資料参照  
阪神・淡路大震災後に「過去の災害から学ぶ」プロジェクトの報告書（平成23年3月）  
日本が過去に経験した自然災害について、災害の状況や社会的な影響、行政や住民の対応、復旧から復興への過程などがまとめられています。

「災害史に学ぶ」 <https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/>

以下、（海溝型地震・津波編）、（火山編）、（風水害・火災編）

[https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/pdf/saigaishi\\_nairikujishin.pdf](https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/pdf/saigaishi_nairikujishin.pdf)

[https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/pdf/saigaishi\\_kaikoujishin\\_tsunami.pdf](https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/pdf/saigaishi_kaikoujishin_tsunami.pdf)

[https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/pdf/saigaishi\\_kazan.pdf](https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/pdf/saigaishi_kazan.pdf)

[https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/pdf/saigaishi\\_huusugai\\_kasai.pdf](https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/pdf/saigaishi_huusugai_kasai.pdf)

「日本の災害」1月

1月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害（2001年以降） ※掲載は日付順
1/1～ 1/10	2013年（平成25年）1月2日 北海道日高郡新ひだか町で18:50頃竜巻 2021年（令和3年）[1月7日～1月11日]発達した低気圧及び強い冬型の気圧配置に伴う大雪・暴風。北日本から西日本の日本海側を中心に広い範囲で大雪・暴風。北陸地方の平地で1メートルを超える積雪。秋田県などで停電発生。 2007年（平成19年）[1月6日～1月9日] 低気圧による暴風、高波、大雪。
1/11～ 1/20	1914年（大正3年）1月12日桜島「大正大噴火」溶岩流出，村落埋没，焼失。地震鳴動顕著。死者58人 1945年（昭和20年）1月13日3:00三河地震 M6.8 死者2,306名 ※1944年東南海地震（12月7日）から37日おいての地震。戦時下の地震で震に関する資料は極秘とされ、戦時報道管制の下、被害に関する報道は厳しく規制された。（内閣府「防災情報のページ」） 1995年（平成7年）1月17日5:46兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）M7.3 死者6,434名 行方不明3名 ※高齢者、低所得者、外国人などが多く犠牲に。戦前の木造住宅が比較的多く残存していた地域での死者が多く、家屋の倒壊や家具などの転倒による圧迫死（死者の9割以上はほとんどが即死状態だった）。（内閣府「防災情報のページ」）
1/21～ 1/31	2002年（平成14年）1月21日 埼玉県さいたま市で15:20頃竜巻 2018年（平成30年）[1月22日～1月27日]南岸低気圧及び強い冬型の気圧配置による大雪・暴風雪等。関東甲信地方や東北太平洋側の平野部で大雪。日本海側を中心に暴風雪。死者5名。

◇（国立公文書館 災害に学ぶ -明治から現代へ）

<https://www.archives.go.jp/exhibition/digital/saigai/index.html>

「地震名や災害名、国立公文書館」で検索すると、災害についてのまとめや写真等の資料を閲覧することができます。

例「1995年（平成7年）1月17日5:46兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）」

発生が早朝であったため、就寝中に家屋や室内家具の下敷きになるなどして亡くなった人が多く、死因の約8割にも及びました。特に、耐震性を考慮して建築基準法が改正された昭和56年（1981）以前に建築された木造住宅の倒壊が多く、古いビルや高速道路でも倒壊したのがありました。こうしたことから、震災後、耐震補強・家具固定に関する国民の意識が高まり、平成7年12月25日には「建築物の耐震改修の促進に関する法律（耐震改修促進法）」が施行され、新耐震基準を満たさない建築物について積極的に耐震診断や改修が進められました。

また、地震を機に、消防・レスキューなどの救助体制についても見直しが図られました。神戸市長田区では木造住宅が密集していた地域を中心に全体で約7千棟が焼失する火災が発生しました。消火活動においては、水道施設が断水したため消火活動ができない、瓦礫がれきの山で消防・救急の特殊車両が現場に到着できないなどの様々な問題が発生し、鎮火までに2日を要することとなりました。こうした問題点を受けて、平成8年には東京消防庁のハイパーレスキュー（消防救助機動部隊）などの特殊部隊が創設されたほか、消防無線における全国共通波の増波や消防・警備における全国的な応援体制の整備が進められました。

また、本災害では、ボランティア活動が注目を集め、活動に参加した人の数は地震から3ヶ月で延べ117万人とも言われています。平成7年は「ボランティア元年」とも言われ、後に1月17日は「ボランティアの日」、17日を含む前後3日間は「ボランティア週間」とされました。

「日本の災害」 2月

2月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害（2001年以降） ※掲載は日付順
2/1～ 2/10	<p><b>1665年（寛文5年）2月1日越後高田の地震</b> 4m以上の積雪があった時の地震。死者1400～1500名</p> <p><b>1605年（慶長9年）2月3日慶長地震（東海・東南海・南海連動型地震）</b> M7.9～8 関東から九州までの太平洋岸に<b>津波</b>、紀伊・阿波・土佐などで大きな被害。八丈島でも津波による死者数十人。死者1万～2万人と推定されるが、津波以外の被害はほとんどなかった。</p> <p>2018年（平成30年）[2月3日～2月8日]強い冬型の気圧配置による大雪。北陸地方の平野部を中心に日本海側で<b>大雪</b>。死者22名。</p>
2/11～ 2/20 (～2/29)	<p><b>2021年（令和3年）2月13日23:07頃 福島県沖地震 M7.3 死者1名</b></p> <p>2007年（平成19年）2月14日 静岡県袋井市で18:10頃<b>突風被害</b></p> <p>2014年（平成26年）[2月14日～2月19日]発達した低気圧による大雪・暴風雪。関東甲信、東北、北海道で<b>大雪・暴風雪</b>。死者24名。</p>

◇冬季の大雪被害

1963年（昭和38年）昭和38年1月豪雪 [昭和37年12月～翌年2月]

北陸地方を中心に大雪。死者228名、行方不明3名。

1977年（昭和52年）昭和52年豪雪 [昭和51年12月～翌年2月]

全国的に大雪。死者101名。

1981年（昭和56年）昭和56年豪雪 [昭和55年12月～翌年3月]

全国的に低温、大雪。死者133名、行方不明19名。

1984年（昭和59年）昭和59年豪雪 [昭和58年12月～翌年3月]

太平洋側でも雪による被害が多発。死者131名。

※2月17日は南岸低気圧の影響で東海から関東地方にかけて大雪となり、東京や横浜で20cmを超える積雪となった。25～26日は関東から東北地方の太平洋側で大雪となった。

（気象庁）

2005年（平成17年）平成18年豪雪 [平成17年12月～翌年3月]

12月から1月上旬を中心に大雪、除雪中の事故等による甚大な被害、死者152名。

※12月中旬から1月中旬を中心に、屋根の雪下ろし等除雪中の事故や落雪、また、倒壊した家屋の下敷きになるなど、甚大な人的被害が発生したほか、家屋の損壊や交通障害、電力障害等、多数の被害が発生した。（気象庁）人的被害については、屋根の雪下ろし等の除雪作業中の死者が全体の約3/4を、65歳以上の高齢者の死者が全体の約2/3を占めている。ライフライン関係においては、12月22日に新潟県下越地方を中心に発生した大規模な停電など、東北・北陸・関西電力管内で延べ約1,488,800戸が停電となったほか上水道については61,091戸が断水した。電気通信関係では、携帯電話基地局151局が停波した。（内閣府「防災情報のページ」）

「日本の災害」 3月

3月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年以降) ※掲載は日付順
3/1~ 3/10	<p>2018年(平成30年)3月1日 茨城県行方市で7:40頃<b>竜巻</b></p> <p>1933年(昭和8年)3月3日2:32 <b>昭和三陸地震</b> M8.1 死者・不明 3,064名 ※地震発生から30分後に津波の第一波、4時頃までに6回の<b>津波</b>襲来。</p> <p>1410年(応永17年)3月5日<b>那須岳噴火</b> 噴石や埋没により死者約180名</p> <p>1927年(昭和2年)3月7日18:27頃 <b>北丹後地震</b> M7.3 死者2,925名 ※最も被害が著しかったのは丹後地方で、<b>家屋倒壊</b>による生き埋め、<b>火災</b>により多くの犠牲者を出しました。峰山町(現京丹後市)では、住宅・織物工場などの家屋の90%以上が倒壊・焼失し、家を失った人々はまだ積雪の残る屋外で避難生活を送ることとなりました。</p> <p>被害状況が新聞などで報道されるに従い、被災者支援のキャンペーンや募金活動が急速に広がりました。復興後、義援金の一部は丹後震災記念館(現京丹後市)の建設に充てられました。(国立公文書館「災害に学ぶ 明治から現代へ」)</p>
3/11~ 3/20	<p>2011年(平成23年)3月11日14:46 <b>東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)</b> M9 死者18,493名、行方不明2,683名、負傷者6,217名 14:49太平洋側の沿岸地域に<b>津波警報(大津波)発表</b> 15:26石巻市鮎川観測所で8.6m以上の津波。 ※<b>福島第一原子力発電所1~3号機の事故発生</b>(3月11日15:37頃津波到来、3月12日1号機水蒸気爆発 3月14日3号機水蒸気爆発)</p> <p>2011年(平成23年)3月12日3:59 <b>長野県・新潟県県境付近の地震</b> M6.7 死者3名、負傷者57名</p> <p>1822年(文政5年)3月12日<b>有珠山噴火</b> <b>火砕流</b>により死者50~103名</p> <p>1872年(明治5年)3月14日16:40頃 <b>浜田地震</b> M7.1 死者約550名 ※地震後に多発した<b>火災</b>の被害も大きかった。</p> <p>2022年(令和4年)3月16日23:36頃 <b>福島県沖地震</b> M7.4 死者4名</p>
3/21~ 3/31	<p>2007年(平成19年)3月25日9:41 <b>能登半島地震</b> M6.9 死者1名、負傷者356名 ※<b>土砂災害</b>は、天然ダム3件、地すべり10件、がけ崩れ51件が発生した。能登有料道路の被害も甚大で、能登半島では、<b>風評被害</b>とも相俟って観光面に大きな打撃を生じた。(内閣府「防災情報のページ」)</p> <p>2000年(平成12年)3月31日<b>有珠山噴火</b> 23年ぶりに<b>噴火</b>。虻田町、壮瞥町、伊達市で約16,000人が避難、家屋771棟が被災 ※電気・水道・電話については、延べ3,065戸が停電、延べ5,085戸が断水となったほか、商用電源の停電によりNTTビルが運用停止するなどの被害が発生した。下水道については、下水道トンネルが破壊され、洞爺湖温泉地区の下水処理ができなくなるなどの被害を受けた。道路については、道央自動車道、国道230号、国道453号等が地殻変動や噴石・泥流等による被害を受けたほか、多数の主要幹線道路が通行止めとなった。(内閣府「防災情報のページ」)</p>

「日本の災害」 4月

4月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害（2001年以降） ※掲載は日付順
4/1～ 4/10	2012年（平成24年）[4月3日～4月5日] <b>低気圧による暴風・高波</b> 西日本から北日本の広い範囲で記録的な <b>暴風</b> となり、海上では <b>大しけ（高波）</b> となった。また、前線の通過に伴い局地的に非常に <b>激しい雨が</b> 降った。 2002年（平成14年）4月3日沖縄県 沖縄市で7:50頃 <b>竜巻</b> 2011年（平成23年）4月7日23:32宮城県沖で <b>地震</b> M7.2 死者4名、負296名 2018年（平成30年）4月8日11時25分頃 新潟県新潟市で <b>竜巻</b>
4/11～ 4/20	2011年（平成23年）4月11日17:16福島県浜通りで <b>地震</b> M7 死者4名、負10名 1781年（天明元年）4月11日桜島 高免沖の島で <b>噴火</b> 、海底噴火。 <b>津波</b> により死者8人、行方不明7人 2016年（平成28年）4月14日～平成28年（2016年） <b>熊本地震</b> M7.3 死者273人 4月14日21:26頃 M6.5/4月16日1:25頃 M7.3 ※ <b>震度7の地震が同一地域で連続して発生</b> するのは震度7が設定された1949年以降初めてのことです。（内閣府「防災情報のページ」） 1785年（天明5年）4月18日青ヶ島 <b>噴火</b> 天明5年 <b>噴火</b> ：火砕物降下→溶岩流。噴火場所は丸山火砕丘。4月18日火口原から噴火を始め噴煙、赤熱噴石、泥土噴出、5月頃まで続く。当時327人の居住者のうち130～140名が死亡と推定され、残りは八丈島に避難し、以後50余年無人島となる。（気象庁「青ヶ島 有史以降の火山活動」）
4/21～ 4/30	2019年（平成31年）4月23日11:30頃 埼玉県ふじみ野市で <b>突風</b> 1771年4月24日（ <b>明和8年</b> ）八重山地震 <b>津波</b> <b>津波</b> による被害で、溺死者1万2000名、家屋の流出2000戸余。※1771年4月24日8:00頃、石垣島近海（石垣島の南南東約40km付近）でM7.4の地震が発生。 2007年（平成19年）4月28日神奈川県 横浜市で15:15頃 <b>突風被害</b> 、東京都 江戸川区で15:20頃 <b>ガストフロント</b> 2017年（平成29年）4月29日三重県津市で14:40頃 <b>ガストフロント</b> 、三重県四日市市で <b>突風</b>

◇**濁水の被害**

国土交通省関東地方整備局「濁水による社会的影響や被害の状況」  
[https://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/river\\_bousai00000062.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/river_bousai00000062.html)

1964年 東京オリンピック濁水 [昭和39年7月～10月]  
最大50%の給水が制限され、衛生状態の悪化から食中毒が続出しました。

1978年 福岡濁水 [昭和53年5月20日～昭和54年3月24日]  
1日のうち5～6時間しか水の出ない日が71日も続きました。

1994年 平成6年の濁水 [平成6年6月～平成7年5月]  
のべ42都道府県、1666万人もの人が濁水の影響を受ける過去最大の大濁水となりました。最長断水時間 22時間(佐世保市)

「日本の災害」 5月

5月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年以降) ※掲載は日付順
5/1～ 5/10	<p>2021年(令和3年)5月1日 静岡県菊川市で18:30頃竜巻</p> <p>2019年(令和元年)5月3日 群馬県太田市で14:40頃突風</p> <p>2012年(平成24年)5月6日 茨城県筑西市で12:30頃竜巻、茨城県常総市で12:35頃竜巻 死者1名、栃木県真岡市で12:40頃竜巻 負傷者37名、家屋全壊76戸。</p>
5/11～ 5/20	<p>2015年(平成27年)5月12日 鹿児島県大島郡伊仙町で7:30頃竜巻</p> <p>2005年(平成17年)5月15日 神奈川県相模原市で15:45頃突風被害</p> <p>1968年(昭和43年)5月16日9時48分頃 十勝沖地震 M7.9 死者52名 太平洋側では津波が押し寄せた。 ※降雨による山崩れの被害での死者も(1968年十勝沖地震災害調査報告 防災科学技術研究所 研究資料)</p> <p>2006年(平成18年)5月20日 埼玉県所沢市で15:30頃竜巻</p>
5/21～ 5/31	<p>1792年(寛政4年)5月21日雲仙岳 津波と火山泥流により死者約1万5,000人 「島原大変肥後迷惑」注：噴火は2月から</p> <p>1925年(大正14年)5月23日11:09北但馬地震 M6.8 死者428名 ※豊岡市街地や城崎温泉街の火災など。城崎町では建物の倒壊で道路がふさがり、消防活動ができず大きな被害となった。(豊岡市「北但大震災の概要」)</p> <p>1960年(昭和35年)5月24日午前4時すぎ チリ地震津波 M9.5 死・不明142名 ※前日5月23日午前4時すぎ(日本時間)、チリ南部でM9.5の超巨大地震が発生。遠地地震による津波の被害。「早朝から出漁準備などで浜に人が居り、津波警報が出なかったにも関わらず、海を良く知る人の判断で死者を出さなかった例が各地に見られた。(内閣府報告書)」</p> <p>1926年(大正15年)5月24日 十勝岳噴火 融雪型火山泥流により2ヵ村村落埋没。死者144人</p> <p>1983年(昭和58年)5月26日11:59日本海中部地震 M7.7 死者104名 地震発生とほぼ同時に10m超の津波(津波による死者は100名、護岸工事中の作業員35名や遠足で海岸に来ていた小学生13名など)</p> <p>2022年(令和4年)5月27日 静岡県富士市で8:30頃突風</p> <p>2015年(平成27年)5月29日 口永良部島噴火 9:59爆発的噴火。火砕流が海岸まで到達。6か月余りの全島避難。</p>

◇竜巻の多発日

8月～10月には、竜巻の多発日がありました。これは、台風シーズンの特徴で9月に最も事例数が多くなっていました。

季節によらず、低気圧や前線の通過とともに各地で竜巻等が起こることもあります。

なお、竜巻やダウンバーストなどの突風被害は真夜中でも起こっています。黒雲で判断できないこともあるので事前の備えが必要です。

◇突風の種類(気象庁)

竜巻などの激しい突風とは <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/toppuu/tornado1-1.html>

※「竜巻」「ダウンバースト」「ガストフロント」の特徴

◇災害の多い年

1953年(昭和28年)は災害が多い年でした。

梅雨前線 [6/23～6/30] 死者行方不明者 1013名

南紀豪雨 [7/16～7/25] 死者行方不明者 1124名

南山城の大雨 [8/11～8/15] 死者行方不明者 430名

台風第13号 [9/22～9/26] 死者行方不明者 478名

「日本の災害」 6月

6月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年以降) ※掲載は日付順
6/1~ 6/10	<p>1974年(昭和49年) (夏季の)桜島噴火 土石流、鉄砲水など二次災害が発生し、6月17日と8月9日に合計8名死亡。</p> <p>1979年(昭和54年) [6月~11月]阿蘇山噴火 死者3人、負傷者11人 ※6~8月に赤熱噴石活動、火口周辺に降灰。9月6日の噴火では火口北東の檜尾岳(ならおだけ)周辺で死者3名、重傷2名、軽傷9名、火口東駅舎被害。小規模な低温の火砕流が発生。10~11月。噴火活発、11月は大量の降灰、農作物に被害。</p> <p>2015年(平成27年) [6月2日~7月26日]梅雨前線および台風第9号、第11号、第12号による大雨。九州南部、奄美地方を中心に大雨。死者2名。</p> <p>1991年(平成3年) 6月3日 雲仙岳噴火 火砕流により死者43名</p>
6/11~ 6/20	<p>2008年(平成20年) 6月14日 8:43頃 岩手・宮城内陸地震 M7.2 死者17名、不明6名、負傷者426名</p> <p>1896年(明治29年) 6月15日 20:00頃 明治三陸地震 死者21,959名 ※大規模な津波による被害</p> <p>2015年(平成27年) 6月15日 群馬県前橋市で16:00頃ダウンバースト</p> <p>2018年(平成30年) 6月16日 沖縄県伊江村で9:30頃竜巻</p> <p>2018年(平成30年) 6月18日 7:58頃 大阪府北部の地震 M6.1 死者6名。※うち2名がブロック塀の崩落に巻き込まれて死亡した。大阪市で3件、兵庫県尼崎市で4件の火災が発生したが、発生同日中に全て鎮火し、火災による死者はいなかった。(内閣府「防災情報のページ」)</p> <p>2004年(平成16年) [6月18日~6月22日] 台風第6号 台風接近・通過時を中心に暴風。九州地方から東海地方にかけての太平洋側で300mmを超える大雨。死者2名、行方不明3名</p> <p>2016年(平成28年) [6月19日~6月30日]梅雨前線による大雨。西日本を中心に大雨。死者7名。</p> <p>2001年(平成13年) 6月19日 愛知県尾西市で13:30頃竜巻</p> <p>2003年(平成15年) 6月19日 宮崎県東臼杵郡門川町で16:14頃竜巻</p>
6/21~ 6/30	<p>2006年(平成18年) 梅雨前線による大雨 [6月21日~6月28日] 熊本県を中心に西日本で大雨。死者1名</p> <p>1721年(享保6年) 6月22日 浅間山噴火 噴石により死者15名</p> <p>1958年(昭和33年) 6月24日 阿蘇山噴火 噴石により死者12人</p> <p>2004年(平成16年) 6月24日 佐賀県佐賀市で7:17頃竜巻</p> <p>1948年(昭和23年) 16:13(当時サマータイムで午後5時13分) 福井地震 M7.1 死者3,769名 ※震源近傍では住家の全壊率100%の集落が多数出現し、3年前の福井空襲から復興途上にあった福井市でも全壊率は80%超。(内閣府資料)</p> <p>2005年(平成17年) 6月28日 梅雨前線による大雨 新潟県を中心に北陸地方で大雨。死者1名。</p> <p>2018年(平成30年) [6月28日~7月8日]平成30年7月豪雨(前線及び台風第7号による大雨等)。西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨。死者263名、行方不明8名。</p> <p>1962年(昭和37年) 6月29日 十勝岳噴火 6月29日噴火:22:40頃、中央火口丘南側湯沼付近から噴火。噴石により大正火口縁の硫黄鉱山事務所を破壊。死者4名、行方不明1名。</p> <p>2001年(平成13年) 6月29日 北海道空知支庁北竜町で14:28頃竜巻</p> <p>2018年(平成30年) 6月29日 滋賀県米原市で13:40頃竜巻</p> <p>2017年(平成29年) [6月30日~7月10日]梅雨前線及び台風第3号による大雨と暴風 ※平成29年7月九州北部豪雨(7月5日~7月6日)。西日本から東日本を中心に大雨。5日~6日は西日本で記録的な大雨。死者39名、行方不明4名。</p>

「日本の災害」 7月（1）

7月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害（2001年以降） ※掲載は日付順
7/1~ 7/10	<p>2005年（平成17年） [7月1日～7月6日] 梅雨前線による大雨 西日本と中部地方で<b>記録的な大雨</b>。死者5名</p> <p>2007年（平成19年） [7月1日～7月17日] 台風第4号と梅雨前線による大雨と暴風 沖縄から東北南部の太平洋側にかけての広い範囲で<b>大雨</b>。沖縄、西日本の太平洋側と伊豆諸島で<b>暴風</b>。死者6名、不明1名。</p> <p>2021年（令和3年） [7月1日～7月3日] 7月1日から3日の東海地方・関東地方南部を中心とした大雨。東海地方・関東地方南部を中心に<b>大雨</b>。静岡県熱海市で<b>土石流</b>が発生。死者29名、行方不明1名。</p> <p>2020年（令和2年） [7月3日～7月31日] 令和2年7月豪雨。西日本から東日本、東北地方の広い範囲で<b>大雨</b>。4日から7日にかけて九州で<b>記録的な大雨</b>。球磨川など大河川での氾濫が相次いだ。死者88名、行方不明2名。</p> <p>2011年（平成23年） 7月5日 新潟県燕市で9:20頃<b>ガストフロント（突風）</b></p> <p>2012年（平成24年） 7月5日 青森県弘前市で17:00頃<b>竜巻</b></p> <p>2014年（平成26年） [7月6日～7月11日] 台風第8号および梅雨前線による大雨と暴風。沖縄地方、九州南部・奄美地方で<b>暴風・大雨</b>。死者3名。</p> <p>2000年（平成12年） 7月8日 三宅島噴火 <b>泥流、降灰</b>により36戸が被災。全島民約4,000人が9月4日に避難。</p> <p>2002年（平成14年） [7月8日～7月12日] 台風第6号、梅雨前線 房総半島上陸。中部地方から東北地方で<b>大雨</b>、関東南部で<b>暴風</b>。岐阜県根尾村で日降水量495mm、八丈島で最大瞬間風速46.1m/s。死者6名、行方不明1名</p> <p>2005年（平成17年） [7月8日～7月10日] 梅雨前線による大雨九州地方や東海地方で<b>激しい雨</b>。死者6名。</p> <p>2010年（平成22年） [7月10日～7月16日] 梅雨前線による大雨（総務省資料では6/11～7/19）西日本から東日本にかけて<b>大雨</b>。死者16名、行方不明5名。</p> <p>2002年（平成14年） 7月10日 埼玉県深谷市で16:00頃<b>竜巻</b></p>

「日本の災害」 7月 (2)

7月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年以降)	※掲載は日付順
7/11~ 7/20	2001年(平成13年) [7月11日~7月13日] 梅雨前線 梅雨前線が日本海に停滞。九州北部で1時間50mmを超える <b>非常に激しい雨</b> 。	
	2012年(平成24年) [7月11日~7月14日] 平成24年7月九州北部豪雨九州北部を中心に <b>大雨</b> 。死者21名、行方不明8名。	
	2004年(平成16年) 7月11日 茨城県那珂町で14:30頃 <b>突風被害</b>	
	1940年(昭和15年) 7月12日 三宅島噴火 火山弾・溶岩流などにより死者11名	
	1993年(平成5年) 7月12日 22:17頃 北海道南西沖地震 M7.8 死者202名 不明28名 ※北海道、東北地方の <b>日本海側では大きな津波が襲来</b> した。とくに震源地近くの奥尻島では、高さが最大21m(藻内地区)の津波が、地震発生直後の数分間で襲来したと考えられている。(内閣府「防災情報のページ」)	
	2004年(平成16年) [7月12日~7月14日] 平成16年7月新潟・福島豪雨新潟県中越地方や福島県会津地方で <b>記録的な大雨</b> 。死者16名。	
	1888年(明治21年) 7月15日 磐梯山噴火 <b>大泥流</b> により山麓の村落が埋没。死者461名	
	2006年(平成18年) [7月15日~7月24日] 平成18年7月豪雨 長野県、鹿児島県を中心に九州、山陰、近畿、北陸地方の広い範囲で <b>大雨</b> 。死者28名、行方不明2名。	
	2006年(平成18年) 山梨県峡東地域で16:40頃 <b>ガストフロント</b>	
	2007年(平成19年) 7月16日 10:13 新潟県中越沖地震 M6.8 死者15名、負2,346名 ※津波注意報が発表され、同注意報が解除された11時20分までに、柏崎で32cmなど、新潟を中心に秋田県から石川県の沿岸で <b>津波</b> が観測された。／政府は、被災自治体の意向を確認した上で、避難所の <b>酷暑</b> 対策として、米国より冷房機96台を受入れた。(内閣府「防災情報のページ」)	
	2017年(平成29年) 7月16日 埼玉県上尾市で18:30頃 <b>ガストフロント</b>	
	1900年(明治33年) 7月17日 安達太良山 中規模な <b>水蒸気噴火 熱灰や石を噴出</b> 。火口の硫黄採掘所全壊、山林耕地被害。死者72名、負傷者10名。※1899(明治32年)8月24日、11月11~12日にも水蒸気噴火あり。(気象庁「安達太良山 有史以降の火山活動」)	
	2004年(平成16年) [7月17日~7月18日] 平成16年7月福井豪雨 福井県や岐阜県で <b>大雨</b> 。福井県美山では1日で平年の月降水量を上回る降水量。死者4名、行方不明1名	
	2001年(平成13年) 7月17日 滋賀県愛知郡愛知川町16:10頃 <b>ダウンバースト</b>	
	2012年(平成24年) 7月17日 栃木県栃木市で16:30頃 <b>ダウンバースト</b>	
	2003年(平成15年) [7月18日~7月21日] 前線、低気圧 梅雨前線が日本海に停滞。九州北部で1時間50mmを超える <b>非常に激しい雨</b> 。死者23名	
2009年(平成21年) [7月19日~7月26日] 平成21年7月中国・九州北部豪雨九州北部・中国・四国地方などで <b>大雨</b> 。死者、行方不明者30名		
2001年(平成13年) 7月19日 三重県川越町で12:10頃 <b>突風被害</b>		
2003年(平成15年) 7月19日 山口県岩国市で7:20頃 <b>竜巻</b>		
2009年(平成21年) 7月19日 岡山県美作市19:00頃 <b>竜巻</b>		

「日本の災害」 7月 (3)

7月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年以降) ※掲載は日付順
7/21~ 7/31	<p>2013年(平成25年) [7月22日~8月1日]梅雨前線および大気不安定による大雨。西日本から北日本の広い範囲で大雨。死者3名、行方不明2名。</p> <p>2008年(平成20年) 7月24日 0:26 岩手県沿岸北部地震 M6.8 死者1名(地震発生時にベッドから転落した高齢女性),負211名</p> <p>2008年(平成20年) [7月27日~7月29日] 大気の状態不安定による大雨と突風 中国・近畿・北陸・東北地方を中心に大雨。東北から近畿地方の広い範囲で突風による被害が発生。※群馬県みなかみ町/湯檜曾川の急増水で、沢遊び中の観光客が流され、死者1名。兵庫県神戸市/都賀川が増水、河道内での親水施設に居た児童らが流され、5名死亡。(気象庁「局地的大雨から身を守るために一防災気象情報の活用の手引き一平成21年2月」)</p> <p>2011年(平成23年) [7月27日~7月30日] 平成23年7月新潟・福島豪雨 新潟県や福島県会津で記録的な大雨。死者3名、行方不明3名。</p> <p>2009年(平成21年) 7月27日 群馬県館林市で14:00頃竜巻</p> <p>1974年(昭和49年) 新潟焼山 噴石により死者3人</p> <p>2004年(平成16年) [7月29日~8月6日] 台風第10・11号相次いで四国に上陸。徳島県で、これまでの日本の記録を上回る日降水量1317mm。死者3名。</p> <p>2014年(平成26年) [7月30日~8月11日] 台風第12号、第11号と前線による大雨と暴風。四国を中心に広い範囲で大雨。死者6名。</p> <p>1640年(寛永17年) 7月31日 北海道駒ヶ岳 ※大規模噴火：山鳴り激しく、昼頃山頂部が一部崩壊し岩屑なだれが大沼と内浦湾になだれ込み津波発生、沿岸で700余名が溺死。山体崩壊と同時に火砕流(ブラスト)発生。山体崩壊後8月2日まで軽石・火山灰を激しく噴出し、降灰、火砕流が発生。活動は8月下旬まで続く。(気象庁「北海道駒ヶ岳 有史以降の火山活動」)</p>

◇7月からの長雨被害

2011年(平成23年) [7月~10月] 集中豪雨・台風第6・9・12・15号 死者106名、行方不明20名。

◇気象庁ホームページで気象災害として記載がなかった1985年(昭和60年)、1986年(昭和61年)、1987年(昭和62年)、1988年(昭和63年)について

1985年(昭和60年)6月は梅雨寒(6月15日の最低気温、釧路-0.4℃、盛岡2.4℃など)

「農業気象」[https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/41/4/41\\_4\\_375/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/41/4/41_4_375/_pdf)より

1986年(昭和61年)上陸台風ゼロの記録。西日本の秋季の渇水の要因の一つ。

「農業気象」[https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/43/1/43\\_1\\_53/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/43/1/43_1_53/_pdf)より

1987年(昭和62年)春の異常少雨(特に4月は記録的少雨で上水道給水制限、水稲の植付け作業の遅れ、野菜の生育・作柄の不良等の被害がでた。) 異常高温、関東地方を中心に酷暑となり、7月24日前橋で39.1℃を記録。この暑さは、電力需要の急増に伴う超高電圧送電線の電圧低下による、首都圏の5都県にわたる広域停電(停電戸数約280万戸)という新しい形の事故を生んだ。

「農業気象」[https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/44/1/44\\_1\\_37/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/44/1/44_1_37/_pdf)より

1988年(昭和63年)7月:北日本及び東日本では記録的な低温と日照不足

「農業気象」[https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/45/1/45\\_1\\_49/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/45/1/45_1_49/_pdf)より

「日本の災害」8月（1）

8月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害（2001年以降） ※掲載は日付順
8/1～ 8/10	<p>1987年（昭和53年）有珠山 [8月～10月] 泥流、降灰砂、地盤変動。死者3人。有珠新山生成</p> <p>2022年（令和4年）[8月1日～8月6日]8月1日から6日の前線による大雨。北海道地方や東北地方及び北陸地方を中心に記録的な大雨。死者2名、行方不明1名。</p> <p>2002年（平成14年）8月1日 埼玉県久喜市、蓮田市、白岡町、菖蒲町で21:00頃突風被害</p> <p>1783年（天明3年）8月4日 浅間山 火砕流・溶岩流・火山泥流。吾妻川、利根川に洪水。死者1,151人（鎌原火砕流発生は8月5日）</p> <p>2008年（平成20年）[8月4日～8月9日] 大気の状態不安定による大雨 関東甲信・東海・近畿・四国・九州地方を中心に大雨。死者6名 ※8月5日豊島区雑司ヶ谷にて地下マンホール内作業中、5名が流されて死亡（消防庁「平成20年8月5日の大雨による被害状況（第4報）」） 11:30頃から大雨、降り始めから10分程度で事故（NHK アーカイブス/災害2008年 東京で局地的な大雨）</p> <p>2011年（平成23年）8月6日 栃木県大田原市で突風被害</p> <p>2012年（平成24年）8月6日 新潟県新潟市で11:30頃ガストフロント、愛知県春日井市で15:30頃ガストフロント</p> <p>1902年（明治35年）8月7日 伊豆鳥島 中央火口丘爆砕。全島民125名死亡</p> <p>2017年（平成29年）8月7日 愛知県豊橋市で16:30頃竜巻</p> <p>2003年（平成15年）[8月7日～8月10日] 台風第10号 日本列島を縦断。全国で大雨、西日本で暴風。室戸岬で最大瞬間風速69.2m/s。死者17名、行方不明2名。</p> <p>2009年（平成21年）[8月8日～8月11日] 熱帯低気圧・台風第9号による大雨 九州から東北地方の広い範囲で大雨。</p> <p>2003年（平成15年）8月8日 宮崎県日向市で7:20頃竜巻</p> <p>2013年（平成25年）[8月9日～8月10日]大気不安定による大雨。秋田県、岩手県を中心に記録的な大雨。死者8名。</p> <p>2005年（平成17年）8月10日 新潟県三条市で13:30頃竜巻</p> <p>2014年（平成26年）8月10日 栃木県栃木市で11:30頃竜巻</p>
8/11～ 8/20	<p>2009年（平成21年）8月11日 5:07 駿河湾 M6.5 死者1名、負傷者319名</p> <p>2021年（令和3年）[8月11日～8月19日]前線による大雨。西日本から東日本の広い範囲で大雨。総降水量が多いところで1200ミリを超える。死者13名。</p> <p>2013年（平成25年）8月11日 群馬県前橋市で18:00頃ダウンバーストまたはガストフロント</p> <p>2020年（令和2年）8月11日 栃木県日光市で14:48頃ダウンバースト</p> <p>2006年（平成18年）8月12日 新潟県柏崎市で8:00頃突風被害</p> <p>2012年（平成24年）[8月13日～8月14日] 前線による大雨 近畿中部を中心に大雨。死者1名、行方不明2名。</p> <p>1947年（昭和22年）8月14日 浅間山 噴石により死者11人</p> <p>2014年（平成26年）[8月15日～8月20日]前線による大雨 ※平成26年8月豪雨（7月30日～8月26日）。西日本から東日本の広い範囲で大雨。死者8名。</p> <p>2016年（平成28年）[8月16日～8月31日]台風第7号、第11号、第9号、第10号及び前線による大雨・暴風。東日本から北日本を中心に大雨・暴風。北海道と岩手県で記録的な大雨。死者2名。</p> <p>2004年（平成16年）[8月17日～8月20日] 台風第15号、前線 四国地方や九州地方などで非常に激しい雨。日本海側の各地で、台風接近時を中心に暴風。死者10名</p> <p>2001年（平成13年）[8月20日～8月22日] 台風第11号 負傷者6名</p>

「日本の災害」 8月（2）

8月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害（2001年以降） ※掲載は日付順
8/21～ 8/31	<p>2011年（平成23年）8月21日 福岡県久留米市で6:10頃竜巻、福岡県福岡市で6:41頃竜巻</p> <p>2016年（平成28年）8月22日 千葉県南房総市で7:10頃竜巻</p> <p>2013年（平成25年）[8月23日～8月25日]8月23日から25日にかけての大雨。島根県で記録的な大雨。死者1名。</p> <p>2013年（平成25年）8月23日 18:30頃 兵庫県篠山市で竜巻、福井県小浜市で竜巻</p> <p>2005年（平成17年）[8月24日～8月26日] 台風第11号 関東地方南部と伊豆地方を中心に大雨。負傷者9名。</p> <p>2018年（平成30年）8月25日 栃木県真岡市で17:45頃ガストフロント</p> <p>2008年（平成20年）[8月26日～8月31日] 平成20年8月末豪雨 愛知県を中心に東海・関東・中国および東北地方などで記録的な大雨。死者2名</p> <p>2006年（平成18年）8月26日 秋田県大仙市14:18頃塵旋風(つむじ風を含む)</p> <p>2019年（令和元年）[8月26日～8月29日]前線による大雨 九州北部地方を中心に記録的な大雨。死者4名。</p> <p>2004年（平成16年）[8月27日～8月31日] 台風第16号高松港、宇野港などで観測開始以来最も高い潮位を観測。瀬戸内中心に高潮被害顕著。死者14名、行方不明3名。</p> <p>2019年（令和元年）8月28日 静岡県三島市で7:59頃竜巻</p> <p>1741年（寛保元年）8月29日 渡島大島噴火 山体が崩壊し、日本海に大津波発生、死者1,475名</p> <p>2011年（平成23年）[8月30日～9月6日] 台風第12号による大雨 紀伊半島を中心に記録的な大雨。死者49名、行方不明55名</p> <p>1896年（明治29年）8月31日 17:06 陸羽地震 M7.2 死者209名 ※同年6月15日には2万人以上の犠牲者を出した三陸地震津波（明治三陸津波）が来襲しており、この年の岩手県は二度にわたって大きな災害を被る（◆岩手県立博物館だより No.122 2009.9）</p>

注：渡島大島噴火 中央防災会議の資料が8月18日としているが、寛保（旧暦の）7月19日（石碑など）をグレゴリオ暦の日付にすると8月29日（気象庁HP記載）と同じ。

◇火山噴火で起こる津波

1640年（寛永17年）7月31日 北海道駒ヶ岳 ※大規模噴火：山鳴り激しく、昼頃山頂部が一部崩壊し岩屑なだれが大沼と内浦湾になだれ込み津波が発生し、沿岸で700余名が犠牲になっています。

1741年（寛保元年）8月29日の渡島大島噴火でも津波の被害が甚大でした。

1792（寛政4）年5月21日の普賢岳では山体崩壊が起こり、それに伴う津波の被害も甚大でした（「島原大変肥後迷惑」）。

このように火山噴火で起こる津波もあります。

「日本の災害」 9月 (1)

9月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年～) ※掲載は日付順
9/1~ 9/10	<p><b>1923年 (大正12年) 9月1日 11:58 関東地震 (関東大震災) M7.9</b> 死・不明 10万5千余 (うち<b>火災</b>による死者は9万2千人余)</p> <p>2002年 (平成14年) 9月1日 福井県今立郡今立町で 15:05 頃<b>突風被害</b></p> <p>2001年 (平成13年) 前線、低気圧 [9月2日~9月7日] 九州南部から四国で1時間 100mm を超える<b>猛烈な雨</b>。</p> <p>2013年 (平成25年) 9月2日 埼玉県さいたま市で 14:00 頃<b>竜巻</b></p> <p>2018年 (平成30年) [9月3日~9月5日] 台風第21号による<b>暴風・高潮</b>等。西日本から北日本にかけて<b>暴風</b>。特に四国や近畿地方で顕著な<b>高潮</b>。死者14名。</p> <p>2004年 (平成16年) 9月3日 北海道後志支庁小樽市で 10:00 頃<b>突風被害</b></p> <p>2005年 (平成17年) 台風第14号、前線 [9月3日~9月8日] 九州・四国・中国地方で長時間にわたる<b>暴風雨、高波</b>。4日夜、東京都と埼玉県で局地的に1時間に100ミリを超える<b>猛烈な雨</b>。死者26名、不明3名</p> <p>2004年 (平成16年) 台風第18号 [9月4日~9月8日] 沖縄から北海道にかけて、各地で<b>猛烈な風</b>。広島で最大瞬間風速60.2m/s、札幌で50.2m/s。死者43名、不明3名。</p> <p>2020年 (令和2年) [9月4日~9月7日] 台風第10号による<b>暴風、大雨</b>等。南西諸島や九州を中心に<b>暴風や大雨</b>。長崎県野母崎で最大瞬間風速59.4メートル。死者3名、行方不明3名。</p> <p>2013年 (平成25年) 9月4日 栃木県塩谷郡塩谷町で 12:50 頃<b>竜巻</b></p> <p>2007年 (平成19年) 台風第9号 [9月5日~9月9日] 東海から北海道にかけて<b>大雨、暴風</b>。死者1名、不明2名。</p> <p><b>2018年 (平成30年) 9月6日 3:07 頃 平成30年北海道胆振東部地震 M6.7</b> 死者43名 ※人的被害は<b>土砂災害</b> (がけ崩れや土石流等) によるもので、主に厚真町で山腹から大規模に土砂が崩れたことにより、民家において多数の死者 (36名) と重軽症者が発生。/日本で初めてとなるエリア全域に及ぶ<b>大規模停電 (ブラックアウト)</b> が発生した。道内全域において最大約295万戸が停電、ブラックアウトから概ね全域に供給できるまで45時間程度を要した。(内閣府報告書)</p> <p>2001年 (平成13年) 台風第16号 [9月6日~9月13日] 沖縄近海で複雑な動き。久米島で最大瞬間風速50.8m/s、期間降水量967.5mmの<b>記録的な大雨</b>。行方不明2名</p> <p>2015年 (平成27年) 9月6日 千葉県千葉市で 21:30 頃<b>竜巻</b></p> <p>2019年 (令和元年) [9月7日~9月10日] 令和元年房総半島台風 (台風第15号) による<b>大雨、暴風</b>等。千葉県を中心に<b>記録的な暴風、大雨</b>。広範囲で<b>大規模な停電</b>が発生した。千葉市で最大瞬間風速57.5メートル。死者17名。</p> <p>2015年 (平成27年) [9月7日~9月11日] 台風第18号等による<b>大雨</b> ※平成27年9月関東・東北豪雨 (9月9日~9月11日)。関東、東北で<b>記録的な大雨</b>。死者8名。</p> <p>2010年 (平成22年) 9月7日 秋田県秋田市で 3:45 頃<b>竜巻</b></p> <p>2001年 (平成13年) 台風第15号 [9月8日~9月12日] 関東南部に上陸、東海から関東山沿いを中心に<b>大雨</b>。栃木県奥日光で期間降水量895mm。死者5名、行方不明3名。</p> <p><b>1943年 (昭和18年) 9月10日 17:36 鳥取地震 M7.2</b> 死者1,083名 ※夕食の準備中だったこともあって<b>火災</b>も発生し、鳥取県内で299戸が全半焼した。(とっとり災害記録伝承ポータル)</p> <p>2001年 (平成13年) 9月10日 東京都 町田市で 10:10 頃<b>竜巻</b> 死者3名。</p> <p>2003年 (平成15年) 台風第14号 [9月10日~9月14日] <b>猛烈な勢力</b>で宮古島を通過。宮古島で最大瞬間風速74.1 m/s。</p>

◇「9月1日」防災の日と二百十日

9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二百十日に当たり、台風シーズンを迎える時期でもあり、また、昭和34（1959）年9月26日の「伊勢湾台風」によって、戦後最大の被害（全半壊・流失家屋15万3,893戸、浸水家屋36万3,611戸、死者4,700人、行方不明401人、傷者3万8,917人）を被ったことが契機となって、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、防災の日が創設されました。

（東京消防庁「防災雑学辞典」）

「日本の災害」9月（2）

9月	地震・津波・火山	気象災害・突風被害（2001年～）	※掲載は日付順
9/11～ 9/20		<p>2000年（平成12年）9月11日 和歌山県新宮市で8:10頃竜巻</p> <p>2002年（平成14年）9月12日 埼玉県上尾市で20:10頃突風被害</p> <p>2003年（平成15年）9月12日 高知県高知市で13:00頃竜巻</p> <p>2017年（平成29年）[9月13日～9月18日]台風第18号及び前線による大雨・暴風等。南西諸島や西日本、北海道を中心に大雨や暴風となった。死者5名。</p> <p>2009年（平成21年）9月13日 山形県鶴岡市で3:40頃竜巻</p> <p>2006年（平成18年）台風第13号 [9月15日～9月20日] 沖縄・九州・中国地方で暴風、大雨。宮崎県では竜巻により死者1名。行方不明1名。</p> <p>2007年（平成19年）秋雨前線による大雨 [9月15日～9月18日] 岩手県、秋田県、青森県の各地で大雨。死者3名、行方不明1名。</p> <p>2011年（平成23年）台風第15号による暴風・大雨 [9月15日～9月22日] 西日本から北日本にかけての広い範囲で暴風や記録的な大雨。死者12名、行方不明3名。</p> <p>2012年（平成24年）台風第16号および大気不安定による大雨・暴風・高波・高潮 [9月15日～9月19日] 沖縄地方から近畿地方太平洋側にかけて大雨・暴風。沖縄地方、九州地方を中心に高波・高潮。死者2名。</p> <p>2013年（平成25年）[9月15日～9月16日]台風第18号による大雨。四国地方から北海道の広い範囲で大雨。死者6名、行方不明1名。</p> <p>2013年（平成25年）9月15日 和歌山県東牟婁郡串本町で14:30頃、17:10頃、18:05頃竜巻</p> <p>2013年（平成25年）9月16日 埼玉県熊谷市で2:00頃竜巻、群馬県みどり市で2:17頃竜巻</p> <p>2013年（平成25年）9月16日 埼玉県比企郡滑川町で1:30頃竜巻</p> <p>2022年（令和4年）[9月17日～9月20日]令和4年台風第14号による暴風、大雨等。九州を中心に西日本から北日本の広い範囲で暴風となり、海では猛烈なしげや大しげ。死者5名。</p> <p>2006年（平成18年）9月17日 宮崎県延岡市で14:03頃竜巻 死者3名</p> <p>2012年（平成24年）9月17日 三重県津市で9:00過ぎ竜巻、鈴鹿市で14:00過ぎ竜巻</p> <p>2021年（令和3年）09月18日 和歌山県日高郡美浜町で0:04頃竜巻</p>	

「日本の災害」9月（3）

9月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害（2001年～） ※掲載は日付順
9/21～ 9/30	<p>2008年（平成20年）9月21日 香川県仲多度郡多度津町で10:50頃竜巻</p> <p>2022年（令和4年）[9月22日～9月24日]令和4年台風第15号による大雨。東日本太平洋側を中心に大雨。特に静岡県や愛知県で<b>猛烈な雨</b>や非常に激しい雨。死者3名。</p> <p>2019年（令和元年）9月22日宮崎県延岡市で8:30頃竜巻</p> <p>2010年（平成22年）9月23日香川県綾歌郡綾川町で6:40頃竜巻</p> <p>1952年（昭和27年）ベヨネース列岩 海底噴火（明神礁）。観測船第5海洋丸の遭難により全員（31人）死亡。</p> <p>1856年（安政3年）9月25日 北海道駒ヶ岳 降下軽石、火砕流により1村落焼死。軽石流により死者約20名。死者21～29名</p> <p>2004年（平成16年）[9月25日～9月30日] 台風第21号、秋雨前線 三重県では1時間に130mmを超える<b>猛烈な雨</b>。尾鷲の日降水量740.5mm。死者26名、行方不明1名。</p> <p>2014年（平成26年）9月27日11時52分頃 御嶽山噴火 水蒸気噴火の噴石等による被害 63名死亡（不明を含む） ※1979年（昭和54年）10月28日早朝に中規模な水蒸気噴火、2007年（平成19年）1月～3月に水蒸気噴火（気象庁「御嶽山 有史以降の火山活動」）</p> <p>2004年（平成16年）9月27日 沖縄県名護市で20:30頃竜巻</p> <p>2018年（平成30年）[9月28日～10月1日]台風第24号による暴風・高潮等。南西諸島及び西日本・東日本の太平洋側を中心に<b>暴風</b>。紀伊半島などで顕著な<b>高潮</b>。死者4名。</p> <p>2008年（平成20年）9月28日 沖縄県国頭郡国頭村で00:00頃突風被害</p> <p>2016年（平成28年）9月28日 福岡県筑後市で20:10頃竜巻</p> <p>2004年（平成16年）9月29日 愛知県豊橋市で23:01頃竜巻</p> <p>2002年（平成14年）[9月30日～10月3日] 台風第21号 関東南部に上陸し、北日本を縦断。関東から北日本の太平洋側で<b>暴風</b>。静岡県石廊崎で最大瞬間風速53.0m/s。死者4名。</p>

◇台風の被害が多かった2004年は暑さが厳しい夏でもありました。

2004年（平成16年）は、台風の上陸数が最多の10個（6月に2個、7月に1個、8月に3個、9月に2個、10月に2個）で、各月の災害にも2004年の台風被害が多く掲載されています。

2004年は暑さも厳しく、東京都心は、「真夏日」（最高気温が30度以上）7月6日～8月14日（40日連続）となりました。うち7月は「**猛暑日**」（最高気温が35度以上）が4日あり、7月20日の**最高気温は39.5℃**、翌7月21日は**38.1℃**でした。

※近年では、2022年6月25日～7月3日には「**猛暑日**」が連続9日となっています。

「日本の災害」 10月

10月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年以降) ※掲載は日付順
10/1~ 10/10	<p>2001年(平成13年)10月1日 和歌山県南部町で7:00頃竜巻</p> <p>1983年(昭和58年)10月3日三宅島 溶岩流出, 阿古地区家屋焼失・埋没394棟</p> <p>2006年(平成18年)[10月4日~10月9日]低気圧による暴風と大雨 近畿から北海道にかけて暴風や大雨。各地で海難事故や山岳遭難が発生。死者34名、行方不明16名。</p> <p>2014年(平成26年)[10月4日~10月6日]台風第18号による大雨と暴風。東日本太平洋側を中心に大雨。沖縄・奄美と西日本・東日本の太平洋側を中心に暴風。死者6名、行方不明1名。</p> <p>2021年(令和3年)10月4日 北海道上川郡東川町で13:00頃ダウンバーストまたはガストフロント</p> <p>2012年(平成24年)10月5日 秋田県にかほ市で8:15頃竜巻</p> <p>2016年(平成28年)10月5日 高知県高知市で14:20頃竜巻</p> <p>2009年(平成21年)[10月6日~10月9日]台風第18号による暴風・大雨 沖縄地方から北海道の広い範囲で暴風・大雨。死者5名。</p> <p>2002年(平成14年)10月7日 神奈川県横須賀市で3:50頃竜巻</p> <p>2004年(平成16年)[10月7日~10月9日]台風第22号、前線台風を中心付近では猛烈な雨や風。静岡県石廊崎で最大瞬間風速67.6m/s。死者7名、行方不明2名。</p> <p>2009年(平成21年)10月8日 茨城県北相馬郡利根町で4:50頃竜巻</p> <p>2009年(平成21年)10月8日 茨城県土浦市で5:00頃竜巻</p> <p>2019年(令和元年)[10月10日~10月13日]令和元年東日本台風(台風第19号)による大雨、暴風等。記録的な大雨、暴風、高波、高潮。10月10日~10月26日の合算で、死者139名、行方不明3名。(※)</p>
10/11~ 10/20	<p>2019年(令和元年)10月12日 千葉県市原市で8:08頃竜巻</p> <p>2003年(平成15年)10月13日 茨城県神栖町で15:30頃ダウンバースト</p> <p>2013年(平成25年)[10月14日~10月16日]台風第26号による暴風・大雨。西日本から北日本の広い範囲で暴風・大雨。死者40名、行方不明3名。</p> <p>2010年(平成22年)10月15日 新潟県胎内市で17:05頃竜巻</p> <p>2004年(平成16年)[10月18日~10月21日]台風第23号、前線広い範囲で大雨。土砂崩れや浸水等により甚大な被害。死者95名、不明3名。</p> <p>2010年(平成22年)[10月18日~10月21日]前線による大雨奄美地方で大雨。死者3名。</p>
10/21~ 10/31	<p>2017年(平成29年)[10月21日~10月23日]台風第21号及び前線による大雨・暴風等。西日本から東日本、東北地方の広い範囲で大雨。全国的に暴風。死者8名。</p> <p>1894年(明治27年)10月22日17:06 庄内地震 M7 死者726名 ※夕飯の仕度時だったため、各地で火災が発生。(第186回企画展「酒田大地震と新潟地震」-酒田市)</p> <p>2004年(平成16年)10月23日17:56 中越地震 M6.8 68名死亡(うち52人が災害関連死) ※妙見町地内の土砂崩れ現場において、39歳女性と3歳女の子が死亡 地震によるショックや避難での疲労から亡くなる高齢者が多かった。(消防庁資料)</p> <p>2019年(令和元年)[10月24日~10月26日]低気圧等による大雨。千葉県と福島県で記録的な大雨。</p> <p>2008年(平成20年)10月24日 三重県志摩市で2:30頃竜巻</p> <p>2008年(平成20年)10月26日 山形県飽海郡遊佐町で17:10頃突風被害</p> <p>2008年(平成20年)10月26日 新潟県新潟市で18:30頃竜巻</p> <p>1891年(明治24年)10月28日6:37 濃尾地震 M8 死者7,273名</p> <p>2009年(平成21年)10月30日 秋田県能代市で9:20頃竜巻</p>

「日本の災害」 11月

11月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年～) ※掲載は日付順
11/1～ 11/10	<p>2010年(平成22年)雪害 (2010)H22.11～H23.3 死者131名</p> <p>2011年(平成23年)雪害 (2011)H23.11～H24.3 死者134名</p> <p>2008年(平成20年)11月2日 秋田県南秋田郡八郎潟町で13:23頃竜巻</p> <p>2006年(平成18年)11月7日 北海道網走支庁佐呂間町で13:23頃竜巻 死者9名、負傷者31名 ※日本における観測史上最大規模と言われる竜巻。時間になると15～20秒位の間。国道333号線の新佐呂間トンネルの工事を請け負っている企業の事務所兼宿泊所で工事関係者9名が死亡。被災現場では竜巻の通過と同時に強い雨が降り出した中で、被災者の捜索が、消防・警察・工事関係者・地元住民・町職員等により午後10時頃まで行なわれました。(佐呂間町「若佐地区竜巻災害の記録」)</p> <p>1779年(安永8年)11月8日 桜島噴火 溶岩流、噴石により死者153名</p> <p>2005年(平成17年) 秋田県南秋田郡大潟村で12:05頃竜巻またはダウンバースト</p>
11/11～ 11/20	<p>2012年(平成24年)11月13日 熊本県上益城郡益城町で12:20頃突風被害</p> <p>1986年(昭和61年)11月15日伊豆大島 12年ぶりに噴火。全島民等約1万人が島外避難。</p> <p>1990年(平成2年)11月17日 雲仙岳 [11.17～] 火砕流により死者・行方不明者44人、負傷者12人</p> <p>2011年(平成23年)11月18日鹿児島県大島郡徳之島町で19:10頃竜巻 死者3名</p>
11/21～ 11/30	<p>1930年(昭和5年)11月26日4:02北伊豆地震 M7.3 死者272名 ※家屋の倒壊で多数の死者。</p> <p>2010年(平成22年)11月29日石川県 羽咋郡志賀町で9:00頃竜巻</p>

「日本の災害」 12月

12月	地震・津波・火山 気象災害・突風被害 (2001年以降) ※掲載は日付順
12/1～ 12/10	<p>2010年(平成22年)12月3日 新潟県新潟市で15:45頃竜巻</p> <p>1944年(昭和19年)12月7日13:00東南海地震 M7.9 死者・行方不明1,223名 ※授業・勤務時間帯で、学校や軍需工場等を中心に死者。</p> <p>2012年(平成24年)12月7日三陸沖 M7.3 死者1名、負傷者15名</p> <p>2010年(平成22年)12月9日 新潟県上越市で17:10頃竜巻</p>
12/11～ 12/20	<p>2020年(令和2年)[12月14日～12月21日]強い冬型の気圧配置による大雪。北日本から西日本の日本海側を中心に大雪。群馬県みなかみ町藤原で期間降雪量291センチ。関越道等で多数の車両の立ち往生が発生。</p>
12/21～ 12/31	<p>1946年(昭和21年)12月21日4:19南海地震 M8 死者1,330名 ※地震発生から10分以内に<b>大津波</b>。</p> <p>1989年(平成1年)12月23日 伊豆東部 海底噴火、住民一時避難</p> <p>2005年(平成17年)12月25日 山形県酒田市で19:10頃突風被害 死者5名</p> <p>※19:14頃 JR東日本の秋田駅発新潟駅行き6両編成の上り特急(いなほ14号)全車両が脱線し、うち1～3両目が盛土から転落して横転し、1両目及び3両目は線路左側の建物に衝突した。乗客5名が死亡し、33名が負傷した。(国土交通省「鉄道事故調査報告書 RA2008-4」)</p>

◇気象災害の名称について

冬季は長い期間で1つの災害名称がついています。「**克雪**(冬の雪害対策)」は、**日々の降雪そのもの**や**暴風雪・雷**などに加えて「**積雪**への対策(雪崩、融雪など)」に長い期間で対策が必要になるからです。

夏季の大雨などは数日単位からの被害で災害の名前がつけられるため、“災害の名称がついた数”は6月～10月に多いですが、決して冬季の気象災害が少ないわけではありません。

## 群発地震

### 1965年(昭和40年)8月3日～松代群発地震

※松代群発地震は1965年(昭和40年)8月3日に3回の体に感じない地震から始まりまし  
た。地震活動は次第に活発になり、翌年の1966年(昭和41年)4月17日には震度1以上の  
地震が1日に585回(うち震度4と震度5が各3回)観測されました。松代群発地震の最大  
マグニチュードは5.4、最大震度は5でした。一連の群発地震により、地すべり、地割れ、  
家屋の倒壊・損壊、湧水による農業被害などがありました。死者はでませんでした。度重  
なる地震により住民に多大な心理的不安をあたえました。松代群発地震は1966年をピーク  
に地震活動は次第に沈静化していきますが、その後も長く継続。(「松代群発地震50年記  
念サイト、2015年8月3日」松代地震観測所・松代地震センター)

## 富士山の噴火

### ◇宝永大噴火(1707年)

1707年(宝永4年)大量のスコリアと火山灰を噴出した宝永大噴火が起こりました。この  
噴火は日本最大級の地震である宝永地震の49日後に始まり、江戸市中まで大量の火山灰を  
降下させるなど特徴的な噴火でした。噴火の1~2か月前から山中のみで有感となる地震活  
動が発生し、十数日前から地震活動が活発化、前日には山麓でも有感となる地震が増しま  
した(最大規模はマグニチュード5程度)。12月16日朝に南東山腹(今の宝永山)で大爆発を  
起こし、黒煙、噴石、降灰があり、激しい火山雷があったとのこと。また、その日のう  
ちに江戸にも多量の降灰があり、川崎で5センチメートル積もっています。噴火は月末まで  
断続的に起きましたが、次第に弱まっていきました。山麓で家屋や耕地に大きな被害があ  
り、噴火後は、洪水等の土砂災害が継続しました。

### ◇古文書などでの富士山の噴火記録

古記録によれば新富士火山の噴火は781年以後17回記録されています。噴火は平安時代に  
多く、800年から1083年までの間に12回の噴火記録があります。また噴火の合間には平  
穏な期間が数百年続くこともあり、例えば1083年から1511年までは400年以上も噴火の  
記録がありません。また1707年の宝永大噴火以後も約300年間噴火しておらず、平穏な状  
態が続いています。

(富士市「富士山の噴火史について」)

2000年までの気象災害・突風被害

1945年（昭和20年）～2000年（平成12年）の気象災害・突風災害を以下に示します。

「1月の気象災害・突風被害」1945年（昭和20年）～2000年（平成12年）※掲載は日付順

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1966年（昭和41年）1月4日 千葉県南総町で 12:48 頃竜巻

1964年（昭和39年）1月17日 東京都八丈町で 15:40 頃竜巻

1966年（昭和41年）1月18日 沖縄県コザ市で 5:50 頃竜巻

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1987年（昭和62年）1月5日 沖縄県勝連町で 7:55 頃竜巻

1992年（平成4年）1月6日 鹿児島県大島郡知名町で 3:30 頃竜巻

1983年（昭和58年）1月20日 北海道渡島支庁 松前町で 16:20 頃竜巻

1989年（平成元年）1月20日 神奈川県綾瀬市で 13:30 頃竜巻

「2月の気象災害・突風被害」1945年（昭和20年）～2000年（平成12年）※掲載は日付順

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1980年（昭和55年）2月2日 福井県坂井郡三国町で 8:20 頃竜巻

1978年（昭和53年）2月3日 静岡県静岡市で 16:50 頃竜巻

1975年（昭和50年）2月6日 鹿児島県大島郡伊仙町で 7:00 頃竜巻

1978年（昭和53年）2月10日 鹿児島県加世田市で 5:30 頃竜巻

1976年（昭和51年）2月22日 群馬県北群馬郡子持村で 12:00 頃竜巻

1978年（昭和53年）2月28日 神奈川県川崎市で 21:20 頃竜巻

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1998年（平成10年）2月14日 沖縄県竹富町で 19:55 頃竜巻

1998年（平成10年）2月17日 沖縄県久米島具志川村で 2:30 頃竜巻

1990年（平成2年）2月19日 鹿児島県枕崎市で 15:15 頃竜巻

「3月の気象災害・突風被害」1945年（昭和20年）～2000年（平成12年）※掲載は日付順

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1971年（昭和46年）3月4日 栃木県那須塩原市で 14:32 頃竜巻

1967年（昭和42年）3月23日 千葉県銚子市で 15:04 頃竜巻

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1981年（昭和56年）3月15日 千葉県松戸市で 13:27 頃竜巻

2000年（平成12年）3月28日 高知県いの町で 17:05 頃突風被害

1997年（平成9年）3月29日 沖縄県糸満市で 12:00 頃竜巻

「4月の気象災害・突風被害」1945年（昭和20年）～2000年（平成12年）※掲載は日付順

**1945年（昭和20年）～1960年（昭和35年）**

1956年（昭和31年）[4月17日～4月18日] 発達した低気圧 北海道で融雪洪水、漁船の遭難、東北、関東で大火。死者47名、行方不明53名。

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1972年（昭和47年）4月1日 東京都府中市で15:30頃竜巻

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1990年（平成2年）4月3日 沖縄県国頭郡金武町で22:15頃竜巻

1986年（昭和61年）4月6日 新潟県三島郡寺泊町で19:10頃竜巻

1990年（平成2年）4月6日 石川県羽咋郡富来町で2:55頃竜巻

1991年（平成3年）4月7日 沖縄県島尻郡具志川村で0:03頃竜巻

1984年（昭和59年）4月14日 北海道十勝支庁士幌町14:00頃塵旋風（つむじ風を含む）

1985年（昭和60年）4月20日 静岡県志太郡大井川町で8:30頃竜巻

「5月の気象災害・突風被害」1945年（昭和20年）～2000年（平成12年）※掲載は日付順

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1979年（昭和54年）5月8日 静岡県浜名郡舞阪町で6:00頃竜巻

1973年（昭和48年）5月21日 石川県羽咋郡押水町で16:30頃竜巻

1964年（昭和39年）5月24日 東京都世田谷区で14:55頃竜巻

1974年（昭和49年）5月24日 東京都三宅島三宅村で16:45頃突風被害

1974年（昭和49年）[5月29日～8月1日] (梅雨)前線、低気圧、台風第8号 土砂災害多発。死者145名、不明1名

1975年（昭和50年）5月31日 島根県簸川郡大社町で18:10頃竜巻

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1993年（平成5年）[5月13日～7月25日] 梅雨前線、台風第4号 前線の活動が長期間活発、台風第4号四国に上陸（7月25日）。九州南部で年間降水量に匹敵する大雨。死者行方不明者26名 ※平成5年は低温と長雨の夏

1989年（平成元年）5月15日 秋田県仙北郡協和町で15:40頃突風被害

1985年（昭和60年）5月28日 沖縄県国頭村で3:30頃竜巻

**1945年（昭和20年）～1960年（昭和35年）**

1949年（昭和24年）[6月18日～6月22日] デラ台風 全国で**水害**、愛媛県で漁船多数遭難。死者252名、行方不明216名

1988年（昭和63年）6月18日 宮城県小野田町で13:30頃**竜巻**

1952年（昭和27年）[6月22日～6月24日] ダイナ台風 紀伊半島から東海・関東を通過、静岡などで被害。死者65名、行方不明70名

1953年（昭和28年）[6月23日～6月30日] 梅雨前線 九州北部に**大雨**。死者748名、行方不明265名。

1961年（昭和36年）[6月24日～7月5日] 昭和36年梅雨前線豪雨 全国で**大雨被害**。長野県伊那谷で大きな被害。死者302名、行方不明55名。

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1976年（昭和51年）6月5日 埼玉県本庄市で12:40頃**竜巻**

1966年（昭和41年）6月6日 静岡県浜松市で11:13頃**竜巻**

1974年（昭和49年）6月6日 静岡県静岡市で12:50頃**竜巻**

1966年（昭和41年）6月8日 沖縄県与那城村で15:10頃**竜巻**

1976年（昭和51年）6月10日 鹿児島県枕崎市で19:00頃**竜巻**

1969年（昭和44年）6月22日 山口県阿武郡須佐町で9:00頃**竜巻**

1973年（昭和48年）6月22日 青森県田舎館村で14:35頃**竜巻**

1966年（昭和41年）6月27日 宮城県加美郡小野田町で17:00頃**竜巻**

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1990年（平成2年）[6月2日～7月22日] 梅雨前線 九州地方を中心に大きな**大雨被害**。死者32名

1991年（平成3年）[6月2日～8月8日] 梅雨前線 梅雨前線の活動が長期間活発、各地に**大雨被害**。死者4名

1989年（平成元年）[6月8日～7月18日] 梅雨前線、台風第6号 梅雨前線により西日本から東日本で**大雨**、台風が九州縦断。死者16名。

1991年（平成3年）6月12日 富山県魚津市で13:30頃**竜巻**

1993年（平成5年）[6月18日～6月20日] 台風第4号 死者1名

1985年（昭和60年）6月23日 福岡県北九州市で14:30頃**竜巻**

1999年（平成11年）梅雨前線、低気圧 [6月23日～7月3日] 西日本で**激しい雨**。福岡市で**地下街に浸水害**、広島県で土砂災害。死者38名、行方不明1名。

1986年（昭和61年）6月24日 広島県三和町で15:35頃**竜巻**

1991年（平成3年）6月24日 鹿児島県始良郡吉松町で11:30頃**竜巻**

1997年（平成9年）台風第8号 [6月26日～6月29日] 九州北部に上陸後、本州を縦断。九州北部・中国・四国地方で**大雨**。鳥取県鹿野町で日降水量311mm。死者3名。

1981年（昭和56年）6月29日 佐賀県佐賀郡川副町で15:35頃**竜巻**

1983年（昭和58年）6月29日 福岡県豊前市で15:00頃**竜巻**

1995年（平成7年）梅雨前線 [6月30日～7月22日] 信越地方を中心に甚大な**大雨被害**。死者4名、行方不明1名。

**1945年（昭和20年）～1960年（昭和35年）**

1951年（昭和26年）[7月7日～7月17日] 低気圧と梅雨前線 梅雨前線が活発化、中部地方以西で**大雨**。死者162名、行方不明144名

1952年（昭和27年）[7月10日～7月12日] 梅雨前線 近畿地方で**大雨**、大阪府で大きな被害。死者67名、行方不明73名。

1953年（昭和28年）[7月16日～7月25日] 南紀豪雨 和歌山県南部で**豪雨**、有田川、日高川が氾濫。死者713名、行方不明411名。

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1962年（昭和37年）[7月1日～7月8日] 梅雨前線による大雨 関東以西の各地に**大雨**、佐賀県で大規模な土砂災害。死者110名、行方不明17名。

1962年（昭和37年）7月2日 茨城県稲敷郡東村で14:30頃**竜巻** 死者2名

1972年（昭和47年）[7月3日～7月13日] 昭和47年7月豪雨 全国で**豪雨災害**相次ぐ。熊本県姫戸町、高知県土佐山田町で土砂崩れにより多数の死者。死者421名、行方不明26名。

1971年（昭和46年）7月7日 埼玉県浦和市で7:50頃**竜巻**

1967年（昭和42年）[7月8日～7月9日] 昭和42年7月豪雨 都市部で大きな被害、佐世保で1時間125mmの**大雨**。死者351名、行方不明18名。

1964年（昭和39年）[7月17日～7月20日] 昭和39年7月山陰北陸豪雨 日降水量200mmを超える**集中豪雨**。出雲地方で大被害。死者114名、不明18名

1957年（昭和32年）[7月25日～7月28日] 諫早豪雨 日降水量1000mmを超える**局地豪雨**。死者586名、行方不明136名

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1982年（昭和57年）[7月～8月] 昭和57年7月豪雨と台風第10号 長崎県を中心に記録的な**大雨**（長崎豪雨）、台風第10号は東海地方に上陸。死者427名、行方不明26名。

1997年（平成9年）梅雨前線、低気圧 [7月1日～7月17日] 西日本から中部地方で**大雨**、鹿児島県出水市で土石流被害。熊本県旭志村で期間降水量1,495mm。死者26名

1996年（平成8年）前線、大気の状態が不安定 [7月3日～7月4日] 熊本・宮崎県で**短時間強雨**。山形・宮城県で**落雷**。死者2名。

2000年（平成12年）大気の状態不安定、台風第3号 [7月3日～7月9日] 伊豆諸島で暴風、関東から北海道の太平洋側で**大雨**。八丈島で最大瞬間風速49.3m/s。

1996年（平成8年）7月5日 千葉県千葉市で14:40頃**竜巻**

1992年（平成4年）7月9日 北海道石狩支庁札幌市11:25頃**竜巻**

1985年（昭和60年）7月11日 岐阜県本巣郡穂積町で1:30頃**竜巻**

1989年（平成元年）7月11日 岡山県津山市で17:40頃**竜巻**

1963年（昭和38年）7月11日 青森県十和田市で13:55頃**竜巻**、14:00頃**竜巻**

1996年（平成8年）7月15日 茨城県下館市で14:50頃**ダウンバースト** 死者1名。

1989年（平成元年）7月19日 熊本県菊池郡旭志村で14:30頃**竜巻**

1988年（昭和63年）7月20日 鹿児島県阿久根市で15:30頃**竜巻**

1983年（昭和58年）[7月20日～7月29日] 昭和58年7月豪雨 島根県を中心に**大雨**。死者112名、行方不明5名。

1997年（平成9年）台風第9号 [7月24日～7月29日] 四国東部に上陸、四国地方を横断、四国から東海地方にかけて**暴風や大雨**。室戸岬で最大瞬間風速52.2m/s、奈良県上北山村で日降水量734mm。負46名

1989年（平成元年）[7月24日～8月7日] 台風第11, 12, 13号 3個の**台風**が相次いで上陸・接近。死者29名、行方不明2名。

2000年（平成12年）7月25日 北海道上川支庁旭川市で9:30頃**ガストフロント**

1993年（平成5年）[7月26日～7月30日] 台風第5・6号 **台風**第5号と第6号が相次いで九州へ上陸。死者行方不明14名

1993年（平成5年）[7月31日～8月29日] 梅雨前線、台風第7・11号 九州南部を中心に甚大な被害。平成5年（1993年）8月豪雨（7/31-8/7） 死者48名、行方不明1名。

**1945年（昭和20年）～1960年（昭和35年）**

1953年（昭和28年）[8月11日] 南山城の大雨 京都府・三重県境で**局地豪雨**。死者290名、行方不明140名

1959年（昭和34年）[8月12日～8月14日] 台風第7号 中部地方で**暴風と大雨**による被害大。死者188名、行方不明47名

1949年（昭和24年）[8月13日～8月18日] ジュディス台風 九州で大きな被害。死者154名、行方不明25名。※台風は8月15日夜9時ごろ、鹿児島県に上陸し、**長崎県対馬の西で停滞**。佐賀県で期間降水量が493.1ミリに達するなど、九州で200ミリから400ミリの大雨。佐賀県では死者80人、住宅の流出・全半壊が654戸。床下床上浸水が25552戸。橋梁流出が250か所。（国立情報学研究所「デジタル台風：ジュディス台風」）

1962年（昭和37年）8月26日 静岡県浜松市で4時頃**竜巻**

1949年（昭和24年）[8月31日～9月1日] キティ台風 関東地方に大きな被害。死者135名、行方不明25名。

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1970年（昭和45年）8月6日 栃木県河内郡上三川町で18:00頃**突風被害**

1972年（昭和47年）8月13日 福島県船引町で竜巻<時刻不明>、福島県浪江町で17:00頃**竜巻**

1968年（昭和43年）[8月17日] 寒冷前線による大雨。近畿地方、東海地方で**大雨**。岐阜県飛騨川でバス転落。死者106名、不明13名。

1965年（昭和40年）8月21日 東京都大田区または世田谷区で9:15頃**竜巻**

1979年（昭和54年）8月22日 福岡県福岡市で14:00頃**竜巻**

1969年（昭和44年）8月23日 茨城県猿島郡猿島町で9:30頃**竜巻**、東京都八丈町で10:45頃**竜巻**、栃木県小山市で10:50頃**竜巻**、福岡県久留米市で14:00頃**竜巻**

1969年（昭和44年）8月28日 宮城県志田郡松山町で**竜巻**<時刻不明>

1971年（昭和46年）8月28日 高知県土佐清水市で14:20頃**竜巻**

[8月26日～8月29日] 1967年（昭和42年）羽越豪雨 新潟県と山形県で**大雨**。死者83名、行方不明55名。

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1997年（平成9年）[8月3日～8月13日] 前線、台風第11号九州・四国地方や北海道などで**大雨**。長崎県平戸で期間降水量708mm。

1998年（平成10年）[8月3日～8月7日] 梅雨前線 新潟県（下越、佐渡）で**記録的な大雨**（平成10年8月上旬豪雨）。新潟で日降水量265mm。死者2名。

1987年（昭和62年）8月5日 熊本県八代郡竜北町で13:10頃**竜巻**

1992年（平成4年）[8月6日～8月9日] 台風第10号 熊本県に上陸後、中国地方を経て日本海へ。温帯低気圧に変わり北日本でも**大雨**。死者2名。

1992年（平成4年）8月7日 宮城県本吉郡唐桑町16:04頃**竜巻**

1995年（平成7年）[8月9日～8月11日] 前線、大気の状態が不安定前線が日本海から本州南岸へ南下、山形・新潟・鹿児島県で**大雨**。鹿児島で1時間104.5mm。死者1名 負2名

1988年（昭和63年）8月10日 埼玉県川島町で11:52頃**竜巻**

1996年（平成8年）[8月11日～8月15日] 台風第12号 熊本県に上陸し、日本海を経て東北へ。南西諸島から西日本で**猛烈な風**、鹿児島で最大瞬間風速58.5m/s。死者5名、負傷者85名。

1985年（昭和60年）8月12日長崎県富江町6:50頃**竜巻**、宮城県児湯郡新富町9:00頃**竜巻**

1999年（平成11年）[8月13日～8月16日] 熱帯低気圧 関東地方中心に**大雨**、神奈川県玄倉川で人的被害。死者16名、行方不明1名。

1994年（平成6年）8月20日 沖縄県伊良部町で10:18頃**竜巻**

1989年（平成元年）[8月25日～8月29日] 台風第17号 四国・本州・北海道に上陸。死者行方不明6名

1984年（昭和59年）8月26日熊本県菊池市で12:30頃**竜巻**

1998年（平成10年）[8月26日～8月31日] 前線、台風第4号 栃木県北部から福島県にかけて**記録的な大雨**（平成10年8月末豪雨）。栃木県那須町で日降水量607mm。死者22名、行方不明2名。

1989年（平成元年）[8月31日～9月16日] 前線、低気圧 日本付近に前線が停滞し、西日本から中部地方で**大雨**による浸水被害。死者20名

**1945年（昭和20年）～1960年（昭和35年）**

1950年（昭和25年） [9月3日～9月4日] ジェーン台風 大阪湾で顕著な**高潮**、大阪・兵庫・和歌山などで大きな被害。死者398名、行方不明141名

1954年（昭和29年） [9月10日～9月14日] 台風第12号 枕崎に上陸、九州で大きな被害。死者107名、行方不明37名。

1948年（昭和23年） [9月11日～9月12日] 低気圧 九州北部で**大雨**。死者121名、行方不明126名

1947年（昭和22年） [9月14日～9月15日] カスリーン台風 典型的な「**雨台風**」、利根川・荒川決壊で東京など関東平野が水浸し。群馬・栃木両県で死者・行方不明者1,100名以上。死者1077名、行方不明853名。

※台風は日本に接近したときは衰弱しており、強風による被害は少なかった。しかし、台風により日本付近に停滞していた**前線の活動が活発化**し、関東地方と東北地方では**大雨**となった。／関東南部では利根川と荒川の堤防が決壊し、埼玉県東部から東京で多くの家屋が浸水した。群馬県、栃木県では土石流や河川の氾濫が多発し、両県で1,100名以上の死者・行方不明者が出た。東北地方では北上川が氾濫して岩手県一関市などで大きな被害が発生した。

（気象庁「災害をもたらした気象事例」）

※首都圏での人口、資産の集中と土地の高度化利用等による社会構造の変化は、氾濫すればカスリーン当時とは比べものにならないほどの激甚な被害をもたらすことも認識すべきである。（内閣府「防災情報のページ」）カスリーン台風を超える台風被害がなかったため現在でも関東地方の治水の被害想定になっている。

1948年（昭和23年） [9月15日～9月17日] アイオン台風 岩手県で甚大な被害。死者512名、行方不明326名。※狭い範囲に集中しての**豪雨**。一関だけが特異な降雨量となり15日から17日の中ではトータルで403.2mm（国土交通省 岩手河川国道事務所「カスリン・アイオン台風より60年」）

1959年（昭和34年） [9月15日～9月18日] 宮古島台風 **猛烈な風**。宮古島で最大瞬間風速64.8m/s。死者47名、行方不明52名。

1945年（昭和20年） [9月17日～9月18日] 枕崎台風 終戦直後を襲った**猛烈台風**。死者2473名、行方不明1283名。※広島県では2,000名を超える死者・行方不明者が出た。

1953年（昭和28年） [9月22日～9月26日] 台風第13号 愛知県に上陸、東海、近畿、北陸で**暴風雨**により大きな被害。死者393名、行方不明85名。

1954年（昭和29年） [9月24日～9月27日] 洞爺丸台風 日本海を発達しながら猛スピードで進む。**青函連絡船「洞爺丸」遭難**。死者1361名、行方不明400名。※洞爺丸の乗員乗客1,139名が死亡するなどの大惨事となった。北海道岩内町では3,300戸が焼失する大火が発生した。さらに**広い範囲で暴風**となったため、被害は九州から北海道まで全国に及んだ。

（気象庁「災害をもたらした気象事例」）

1958年（昭和33年） [9月26日～9月28日] 狩野川台風 狩野川が氾濫し大被害。首都圏でもがけ崩れや浸水の被害。死者888名、行方不明者381名。

1959年（昭和34年） [9月26日～9月27日] 伊勢湾台風 **高潮**による被害顕著、台風による死者・行方不明者最大。死者4697名、行方不明401名。

※台風による犠牲者は全国32道府県に及んだが、その83%は高潮の発生によって愛知・三重の2県に集中した。

国は、9月30日に「中部日本災害対策本部」を設置し、堤防の締め切り、湛水地域の排水、応急救助の円滑化、被災者支援、応急仮設・災害復興・災害公営住宅等の建設・補修、資材の緊急輸送などの復旧活動を一元化した。この経験等を踏まえ、防災の概念と国の責務を明確にした「災害対策基本法」が被災から2年後の1961年10月に制定された。（内閣府「防災情報のページ」）

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1979年（昭和54年）9月3日 大分県大分市で17:45頃**突風被害**

1966年（昭和41年）[9月4日～9月6日] 第2宮古島台風 宮古島では長時間にわたり**暴風**。宮古島で最大瞬間風速85.3m/s。

1979年（昭和54年）9月4日 三重県四日市で9:30頃**竜巻**、愛知県名古屋市で13:27頃**竜巻** 死者1名、千葉県松戸市で18:55頃**竜巻**

1965年（昭和40年）9月5日 青森県むつ市で11:40頃**竜巻**

1974年（昭和49年）9月7日 静岡県浜松市で9時頃**竜巻**

1975年（昭和50年）9月8日 北海道檜山支庁 奥尻郡奥尻町で1時頃**竜巻**

1976年（昭和51年）[9月8日～9月14日] 台風第17号 全国的に**記録的な大雨**。死者161名、行方不明10名。

1977年（昭和52年）[9月8日～9月10日] 沖永良部台風 沖永良部島で最低気圧907.3hPa。死者1名。

1976年（昭和51年）9月9日 茨城県下館市で8:30頃**竜巻**、栃木県真岡市で9:30頃**竜巻**、群馬県太田市で22:52頃**竜巻**

1977年（昭和52年）9月9日 茨城県岩井市で10:20頃**竜巻**、埼玉県大里郡川本町で10:50頃**竜巻**

1965年（昭和40年）[9月10日～9月18日] 台風第23号、第24号、第25号 3つの台風が相次いで上陸、接近。全国で**暴風と大雨**の被害甚大。死者153名、行方不明28名。

1976年（昭和51年）9月10日 静岡県磐田郡浅羽町で14:45頃**竜巻**

1961年（昭和36年）[9月15日～9月17日] 第二室戸台風 **暴風と高潮**による被害、室戸岬で最大瞬間風速84.5m/s以上。死者194名、行方不明8名。

1961年（昭和36年）9月15日 宮崎県宮崎市で7:40頃**竜巻**、愛知県知多郡大府町で10:15頃**竜巻**

1968年（昭和43年）[9月22日～9月27日] 第3宮古島台風 またも宮古島で甚大な被害。宮古島で最大瞬間風速79.8m/s。死者11名。

1966年（昭和41年）[9月23日～9月25日] 台風第24号、26号 同日に2つの台風が西日本と東日本に上陸。山梨県富士山麓で**土石流**により大被害。死者238名、行方不明79名。

1976年（昭和51年）9月23日 青森県八戸市13:30頃**竜巻**

1968年（昭和43年）9月24日 宮崎県高鍋町で17:25頃**竜巻**

1978年（昭和53年）9月26日 山形県酒田市12:00頃**竜巻**

1962年（昭和37年）9月28日 北海道宗谷支庁 東利尻町で14:20頃**竜巻**

1965年（昭和40年）9月30日 秋田県秋田市で2:35頃**竜巻**

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年） ①9月1日～9月10日**

1993年（平成5年）[9月1日～9月5日] 台風第13号非常に強い勢力で九州南部に上陸。種子島で最大瞬間風速59.1m/s、宮崎県日之影町で日降水量540mm。死者行方不明48名

1983年（昭和58年）9月1日 長崎県西彼杵郡琴海町で10:17頃竜巻

1994年（平成6年）[9月2日～9月8日] 大気の状態が不安定、寒冷前線 大阪府北部から兵庫県南東部で局地的大雨。大阪府豊中市で1時間91mm。

1993年（平成5年）9月3日 宮崎県延岡市で15:45頃竜巻、高知県吾川郡春野町で20:22頃竜巻

1994年（平成6年）9月8日 埼玉県美里町で14:30頃ダウンバースト

2000年（平成12年）[9月8日～9月17日] 停滞前線、台風第14・15・17号 東海地方で記録的な大雨、7万棟が浸水。名古屋市で日降水量428mm。死者10名、行方不明2名。

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年） ②9月11日～9月20日**

1990年（平成2年）[9月11日～9月20日] 前線、台風第19号 台風が和歌山県に上陸し、本州縦断。西日本で総降水量1,000ミリを超える大雨。死者42名、不明2名。

1991年（平成3年）[9月12日～9月28日] 前線、台風第17、18、19号 台風が相次いで日本に上陸・接近。台風第19号の暴風による死者多数。死者84名、行方不明2名

1997年（平成9年）[9月13日～9月17日] 台風第19号 九州南部に上陸、九州南部や四国で暴風。西日本から中部地方の太平洋側で大雨。宮崎県えびの市で日降水量688mm。死者10名

1999年（平成11年）[9月14日～9月16日] 前線、台風第16号 九州南部に上陸後、四国から本州中部へ。岐阜県で長良川が氾濫。死者7名、行方不明1名。

1998年（平成10年）[9月15日～9月17日] 台風第5号 静岡県に上陸後、北日本を縦断。関東で暴風、東日本から北日本で大雨。千葉県銚子で最大瞬間風速45.7m/s、北海道広尾で日降水量346mm。死者7名

1990年（平成2年）9月16日 東京都田無市で11:30頃竜巻

1995年（平成7年）[9月16日～9月17日] 前線、台風第12号 伊豆諸島・千葉県で暴風雨。三宅島で最大瞬間風速55.4m/s以上、千葉県勝浦で日降水量232mm。死者2名、行方不明2名。

1998年（平成10年）9月17日 宮崎県宮崎市で16:02頃竜巻

1989年（平成元年）[9月17日～9月20日] 台風第22号、前線 九州南部に上陸し、本州南岸を進む。太平洋側中心に大雨。死者、行方不明9名。

1990年（平成2年）9月19日 東京都稲城市で19:10頃竜巻、茨城県稲敷郡東村で竜巻<時刻不明>、栃木県壬生町で22:20頃竜巻

1998年（平成10年）[9月20日～9月23日] 台風第8・7号 台風第8号、第7号が2日連続して近畿地方に上陸。三重県上野で最大瞬間風速56.4m/s。死者18名、行方不明1名。

1994年（平成6年）9月20日 山形県温海町で4:00頃突風被害

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年） ③9月21日～9月30日**

1998年（平成10年）9月21日 埼玉県深谷市で11:30頃竜巻

1999年（平成11年）[9月21日～9月25日] 台風第18号 熊本県に上陸。熊本県で顕著な高潮被害。南西諸島・九州・中国地方で猛烈な風、中部地方で大雨、愛知県で竜巻発生。死者31名。

1992年（平成4年）9月22日 沖縄県名護市で10:00頃竜巻

1994年（平成6年）[9月22日～9月24日] 寒冷低気圧 仙台市を中心に大雨、日降水量147mm。負傷者2名。

1998年（平成10年）[9月23日～9月25日] 前線 高知県で記録的な大雨。高知で1時間129.5mmの猛烈な雨。死者9名。

1995年（平成7年）9月23日 沖縄県読谷村8:50頃竜巻

1999年（平成11年）9月24日 山口県小野田市で8:00頃竜巻、愛知県豊橋市で11:07頃竜巻、愛知県小坂井町12:10頃竜巻

1983年（昭和58年）9月25日 沖縄県伊是名村で15:00頃竜巻、沖縄県東村で15:30頃竜巻またはダウンバースト

1988年（昭和63年）9月25日 和歌山県串本町で9:40頃竜巻

1983年（昭和58年）9月27日 高知県土佐市で23:40頃竜巻

1985年（昭和60年）9月28日 鹿児島県枕崎市で13:55頃竜巻

1994年（平成6年）台風第26号 [9月28日～9月30日] 和歌山県南部に上陸し本州横断。紀伊半島で暴風雨。三重県津で最大瞬間風速48.7m/s、奈良県上北山村で日降水量733mm。死者3名。

1990年（平成2年）[9月26日～10月1日] 前線、台風第20号 台風が和歌山県に上陸。九州から関東の太平洋側で大雨。死者5名、不明1名。

1994年（平成6年）9月29日 愛知県豊橋市で17:30頃竜巻

**1945年（昭和20年）～1960年（昭和35年）**

1945年（昭和20年）阿久根台風 [10月9日～10月13日] 全国で**暴風雨**、兵庫県で大きな被害。死者377名、行方不明74名

1951年（昭和26年）ルース台風 [10月10日～10月15日] 鹿児島県で**強風・高潮害**、山口県で土砂災害。死者572名、行方不明371名。

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1983年（昭和58年）10月3日 新潟県岩船郡神林村で4:00頃**竜巻**

1985年（昭和60年）10月3日 沖縄県宮古支庁多良間島で23:00頃**竜巻**

1985年（昭和60年）10月5日 高知県土佐市で18:40頃**竜巻**、高知市で18:45頃**竜巻**

1986年（昭和61年）10月5日 鹿児島県曾於郡末吉町で**竜巻**<時刻不明>

1961年（昭和36年）10月7日 静岡県清水市で10:10頃**竜巻**

1979年（昭和54年）[10月10日～10月20日] 台風第20号 日本列島縦断、全国で**暴風**。死者110名、行方不明5名。

1975年（昭和50年）10月12日 長崎県東彼杵郡東彼杵町で3:50頃**竜巻**、熊本県本渡市で5:15頃**竜巻**

1962年（昭和37年）10月13日 北海道空知支庁由仁町で20:30頃**竜巻**

1965年（昭和40年）10月14日 東京都大田区で21:40頃**竜巻**

1980年（昭和55年）10月14日 宮崎県宮崎市で2:20頃**竜巻**

1973年（昭和48年）10月22日 秋田県秋田市で13:20頃**竜巻**

1976年（昭和51年）10月23日 沖縄県南風原村で7:20頃**竜巻**

1961年（昭和36年）[10月25日～10月28日] 前線、台風第26号 西日本・中部・関東で水害、大分県では電車が埋まり多数の死者。死者78名、行方不明31名。

1980年（昭和55年）10月31日 北海道日高支庁門別町で9時頃**竜巻**

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1990年（平成2年）10月5日 鹿児島県大島郡和泊町で8:35頃**竜巻**

1990年（平成2年）10月6日 鹿児島県川内市で10:50頃**竜巻**

1997年（平成9年）10月14日 長崎県壱岐郡郷ノ浦町で13:45頃**竜巻**

1998年（平成10年）[10月15日～10月18日] 前線、台風第10号 九州南部に上陸、西日本縦断。和歌山で最大瞬間風速53.8m/s。死者12名、行方不明1名。

1998年（平成10年）10月17日 宮崎県日向市で15:00頃**竜巻**

1999年（平成11年）[10月27日～10月28日] 低気圧 低気圧が本州南岸で急速に発達。千葉県佐原市で1時間153mmの**記録的な大雨**。死者4名、行方不明1名。

1992年（平成4年）10月30日 静岡県掛川市で18:15頃**竜巻**

「11月の気象災害・突風被害」1945年（昭和20年）～2000年（平成12年）※掲載は日付順

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1979年（昭和54年）11月2日 北海道渡島支庁松前郡松前町で1:58頃竜巻

1972年（昭和47年）11月14日 鹿児島県種子島南種子町で12:00頃竜巻

1973年（昭和48年）11月19日 新潟県荒川町で15:00頃竜巻

1972年（昭和47年）11月21日 富山県黒部市で17:05頃竜巻

1961年（昭和36年）11月22日 静岡県浜北町で6:37頃竜巻

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1997年（平成9年）11月17日 東京都八丈町で8:00頃竜巻

1999年（平成11年）11月25日 秋田県八森町で15:40頃竜巻

1991年（平成3年）11月28日 宮崎県日南市で11:45頃竜巻

1993年（平成5年）11月28日 北海道胆振支庁鵡川町で0:35頃突風被害

「12月の気象災害・突風被害」1945年（昭和20年）～2000年（平成12年）※掲載は日付順

**1961年（昭和36年）～1980年（昭和55年）**

1969年（昭和44年）12月7日 愛知県豊橋市で18:00頃竜巻

1980年（昭和55年）12月18日 山形県酒田市で9:00頃竜巻

1986年（昭和61年）12月18日 高知県南国市で16:10頃竜巻

1986年（昭和61年）12月19日 愛知県渥美郡赤羽根町で1:30頃竜巻

1979年（昭和54年）12月21日 鹿児島県揖宿郡開聞町で14:25頃竜巻

**1981年（昭和56年）～2000年（平成12年）**

1990年（平成2年）12月11日 千葉県鴨川市で17:47頃竜巻、千葉県富津市で17:50頃竜巻、千葉県茂原市で19:13頃竜巻

1991年（平成3年）12月11日 石川県金沢市で20:10頃竜巻

1962年（昭和37年）12月30日 静岡県千浜村で8:25頃竜巻